

授 業 要 項

令和6年度

科目名	心理学				担当者	若山和樹			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	①心理学の基礎的な知識を学ぶ。 ②テキストを通じて学びを深める ③援助者としての基本的な対人コミュニケーションを身に着ける								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]				担当者			
	1 心理学とは何か:基礎心理学と臨床心理学	心理学の学問としての基礎的な知識を得る				若山和樹			
	3 子供を知ろう 発達期の二つの段階	子供の発達の理論を通じて、子供の心の理解を深める				若山和樹			
	4 子どもを知ろう② 発達障害	同上				若山和樹			
	5 青年を知ろう 青年期の課題	青年期の心理的問題を通じて、自己理解を深める				若山和樹			
	6 大人を知ろう さまざまな精神疾患と心理①	さまざまな精神疾患の事例を通じて、その理解を深める				若山和樹			
	7 大人を知ろう さまざまな精神疾患と心理②	同上				若山和樹			
	8 大人を知ろう さまざまな精神疾患と心理③	同上				若山和樹			
	9 大人を知ろう さまざまな精神疾患と心理④	同上				若山和樹			
	9 学習理論とその応用①	心理学における学習理論を学び、その臨床的応用を目指す				若山和樹			
	10 学習理論とその応用②	同上				若山和樹			
	11 学習理論とその応用③	同上				若山和樹			
	12 学習理論とその応用④	同上				若山和樹			
授業形態	講義 グループ学習								
教科書	片山和男編著『ストレス社会とメンタルヘルス』								
参考書	河合伊六監修『リハビリテーションのための行動分析学入門』医歯薬出版株式会社								
評価方法	筆記試験								
授業時間外の学習	グループワーク、課題などを課外活動を求められる場合がある								
履修上の留意点	特になし								

授業要項

令和6年度

科目名	教育学				担当者	藤田 舜			
学年	1	学期	前期	学科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<p>(1)教育学のさまざまな分野の知見をふまえ、教育・学習を多様な視点から複眼的に理解するとともに、教育・学習の現代的課題に対して自らの考えを説明できるようになる。</p> <p>(2)さまざまな専門職が関わる対人援助の一つでもある教育について学ぶことを通して、専門職チームの一員として対人援助に取り組むための基礎的な資質を高める。</p> <p>(3)自ら学び続ける姿勢や、他者の学びを支援する基礎的な能力を身につける。</p>								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]				担当者			
	1 イントロダクション:経験の振り返りから考える教育	自らの経験を振り返り共有し合うことで、教育という事象は多様な視点から考えられるものであることを理解することができる。				藤田 舜			
	2 ヒトの学習:他の動物との比較	他の動物の学習と比較しながら、ヒトの学習の特質を生物学・心理学的な観点から説明することができる。				藤田 舜			
	3 教育の歴史:時間軸で見る教育	前近代の教育のあり方を理解することで、近代的な学校教育を相対化して捉えることができる。				藤田 舜			
	4 海外の教育:空間軸で見る教育	海外の多様な教育のあり方を理解することで、日本の教育を相対化して捉えることができる。				藤田 舜			
	5 学校教育課程とその近年の潮流	主に学校における教育課程の意義やその編成のあり方を理解するとともに、近年の教育課程における潮流を説明することができる。				藤田 舜			
	6 生涯学習の多様なかたちと意義	現代社会における生涯学習の多様なあり方と意義を説明することができる。				藤田 舜			
	7 学校内外の多職種連携・協働(1):教師と学校組織の視点から	日本の教職の特徴を理解するとともに、近年の「チームとしての学校」の取り組みの可能性と課題について説明することができる。				藤田 舜			
	8 学校内外の多職種連携・協働(2):ケアの視点から	医療や福祉などとも関連するケアの視点から、教育の現代的課題を捉えることができる。				藤田 舜			
	9 模擬授業の計画・準備と実施(前半)	これまでの授業で学んだこともふまえながら、グループで協働して模擬授業を計画・準備し、実施することができる。				藤田 舜			
	10 模擬授業の実施(後半)と授業の振り返り	これまでの授業で学んだこともふまえながら、グループで協働して模擬授業を実施することができる。教育学を学ぶ意義を説明することができる。				藤田 舜			
授業形態	講義を主体とするが、発言の機会やペアワーク・グループワークも取り入れる。								
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。								
参考書	全体および各回の内容に関連する文献は授業時に紹介する。								
評価方法	筆記試験(50%)、授業に取り組む姿勢(25%)、各回の振り返りシート(25%)により総合的に評価する。								
授業時間外の学習	シラバスや授業時の指示に応じた事前学習とグループでの模擬授業に向けた事前準備を計45分程度行うこと。また、授業後は配布資料や講義内容を基に45分程度の復習を行うこと。								
履修上の留意点	講義における発言の機会やペアワーク・グループワークでは、テーマに関連した自らの考えを積極的に述べ、他の受講者と協力して授業に取り組む姿勢を期待する。また、必要に応じて映像教材を使用する。各回の授業後には振り返りシートの記入・提出を求める。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	人間発達学				担当者	木村 悠人			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	胎児期から老年期に至るまでの各発達段階について学ぶことにより、様々な観点から人間発達の理解を深める。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 人間発達とは／胎児期の発達				人間発達についての基本事項を理解する。 胎児期の発達を理解する。			木村 悠人	
	2 乳幼児期の発達1				乳幼児期の知覚や運動を理解する。			木村 悠人	
	3 乳幼児期の発達2				乳幼児期の認知や社会性、言語の発達を理解する。			木村 悠人	
	4 乳幼児期の発達3				幼児期の発達を理解する。			木村 悠人	
	5 児童期の発達				児童期の発達を理解する。			木村 悠人	
	6 青年期の発達				青年期の発達を理解する。			木村 悠人	
	7 成人期の発達				成人期の発達を理解する。			木村 悠人	
	8 老年期の発達／まとめ				老年期の発達を理解する。 これまでの学習のまとめを行う。			木村 悠人	
授業形態	講義・グループディスカッション								
教科書	舟島なをみ・望月美知代「看護のための人間発達学 第5版」(医学書院)								
参考書	授業中に適宜紹介する。								
評価方法	期末試験(50%) レポート課題(50%)								
授業時間外の学習	教科書の該当箇所を目を通すなど30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと								
履修上の留意点	授業で取り上げたテーマから1つ選択し、レポートを提出してもらう。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	生物学				担当者	八木 美和			
学 年	1	学 期	前 期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	理学療法、作業療法の各種専門科目を履修する為の生物学の基礎的内容を理解する。 生物未履修者と履修者の差をなくし同じレベルになることを目標とする。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1	生物とは何か			生物の共通性と多様性			八木 美和	
	2	生体構成物質			生物体を構成する物質(主に有機物)の構造や生体内ではたらき			八木 美和	
	3	細胞・組織・器官			細胞の構造、細胞膜のはたらき、細胞分裂、組織の種類と器官、動物体のなりたち			八木 美和	
	4	生殖と発生、器官形成			配偶子の形成と受精、ウニ・カエル・ヒトの発生			八木 美和	
	5	受容器と効果器			各感覚器官の構造とはたらき、筋肉の構造と収縮のしくみ			八木 美和	
	6	神経系のなりたちとそのはたらき			神経系の基本単位であるニューロンについて、ニューロンでの興奮伝導のしくみ			八木 美和	
	7	恒常性			恒常性のしくみと体液、腎臓・肝臓のはたらき、自律神経系と内分泌系での調節			八木 美和	
	8	代謝			呼吸(好気呼吸)・発酵(嫌気呼吸)の反応過程			八木 美和	
	9	遺伝とメンデルの遺伝法則			メンデルの遺伝法則、染色体と遺伝子、様々な遺伝の仕組み、突然変異、ヒトの遺伝疾患			八木 美和	
10	遺伝子と最近の遺伝子研究			遺伝子=DNAの証明、遺伝子の発現のしくみとタンパク質合成、バイオテクノロジー			八木 美和		
授業形態	パワーポイントによる講義、教科書内容の説明、講義プリントを使用。								
教科書	医療・看護系のための生物学(裳華房)								
参考書	高校で使用した生物の図説・資料集を持参するとよい。								
評価方法	学習中の小テスト、研究課題レポート、学習後の一般筆記試験								
授業時間外の学習	講義後に教科書の該当箇所を熟読し理解すること。疑問点等は次回の講義後に質問し解決しておくこと。課題内容はグループで討議・検討して自分の考えをまとめること。								
履修上の留意点	生理学、解剖学などの専門科目の基礎となる内容に関して重点的に講義をするので、内容をしっかり理解すると同時に定着させること。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	英語 I				担当者	小寺陽子			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	医療に携わる者として、基本的、実践的な英語を身につけ、会話とアクティビティで、病院に従事するあらゆる人が直面するシーンでの対応が英語でおこなえるようにする。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]				担当者
	1 Hospital Departments				病院の各科の名称をつかって、様々な症状のある患者に適切な科を案内する。				小寺陽子
	2 Application Forms				受診の申込書の書き方の習得(職業、住所、生年月日 等)				小寺陽子
	3 Parts of the Body				体の各部の名称をつかい、症状を説明する。				小寺陽子
	4 Illness				医者の診察を受ける時の症状の説明の仕方と病気の名前の習得				小寺陽子
	5 Daily Routine				入院患者の日常医務に関して説明する。				小寺陽子
	6 Hospital Objects				様々な医療用具の名称と使い方を習得する。				小寺陽子
	7 Locations of Hospital Objects				医療用具の収納場所の説明をする。				小寺陽子
	8 Hospital Directions and Instructions				病院内の様々な科と場所への行き方を説明する。				小寺陽子
	9 Directions(Outside the Hospital)				病院外の様々な場所への行き方を説明する。				小寺陽子
	10 Chatting with a Patient				様々な症状を持つ患者とのコミュニケーションを練習する。				小寺陽子
授業形態	ペアワークを中心にした入門医療英会話								
教科書	Vital Signs Revised Edition (Essential English for Healthcare Professionals) 南雲堂								
参考書									
評価方法	期末試験 70% 小テスト 30%								
授業時間外の学習	教科書の該当箇所に通すなど30分程度の予習を行い、授業後は復習と与えられた課題に取り組む								
履修上の留意点	ペアワークやグループワークでの英語を使ってのアクティビティには積極的に参加すること。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	物理学				担当者	松岡 是治			
学 年	1年	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	物理学は現代文明を支える工学や技術の基礎である。物理学の諸分野の中でも、力学は身近な物理現象と密接に結びつき、古くから体系を整えて物理学における研究方法の範例となった分野である。本講義では、加速度、力、エネルギー等の物理学全体をつらぬく基礎概念を、主として力学を通じて理解し、さらに身体運動の理解に必要なさまざまな物理現象を学ぶ。また、流体、熱と温度、波動、電磁気、光と電磁波などの物理現象にも簡単にふれる。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 静力学 1	数学と物理の簡単な復習。ベクトル、力の合成と分解、力のつりあい等、静力学の基礎と数学的表記法を学ぶ。						松岡 是治	
	2 静力学 2	重力、摩擦力、弾性力等のさまざまな基本的な力および作用・反作用の法則を理解し、質点にはたらく力のつりあいを説明できる。						松岡 是治	
	3 静力学 3	力のモーメントと剛体のつりあいを理解し、てこの原理、平行力をふくむ力の合成、重心と力のモーメントとの関係を説明できる。						松岡 是治	
	4 静力学 4 動力学 1	生体の中にみられる様々な力学の原理を理解し、それらの関連を説明できる。動力学では、ニュートンの三つの法則を解説する。						松岡 是治	
	5 動力学 2	力学の基本であるニュートンの三つの法則を理解する。落体の運動、および仕事、仕事率、力学的エネルギー保存の法則を理解し、説明できる。						松岡 是治	
	6 流体、熱と温度	流体の基礎である圧力、浮力およびアルキメデスの原理および熱と温度、熱の移動形態等の熱現象を概説する。						松岡 是治	
	7 波と音	中間試験を実施した後、講義をおこなう。波の干渉と回折、音などの波動現象を概説する。ランベルトの法則を説明できる。						松岡 是治	
	8 電気と磁気、光と電磁波	電場と磁場、オームの法則、電気とエネルギー等の電磁気学の基礎的な事柄、および光と電磁波について概説する。						松岡 是治	
	9								
10									
授業形態	講義								
教科書	なし。プリントを配布する。								
参考書	「PT・OT ゼロからの物理学」 望月久、棚橋信雄 編著 羊土社 「身体運動の理解につなげる物理学」 江原義弘、山本澄子、中川昭夫 著 南江堂								
評価方法	中間試験および定期試験の結果を総合的に採点し、60点以上を合格とする。								
授業時間外の学習	講義1回あたり、3～4枚のプリントの内容を学習する。配布されたプリントで必ず予習をし、事前に《課題》の演習問題を解いてから講義に臨むこと。								
履修上の留意点	演習問題を解くことにより理解が深まる。《課題》の簡単な解答も講義プリントと同時に配布するので、事前に《課題》を解いて、十分な予習をしておくこと。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	保健体育				担当者	片岡研人			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	運動に関する知識を深めると同時に技能を高め、健康で安全な運動計画を実践していく能力を身につける。 スポーツ・レクリエーションを通じて運動の楽しさ喜びを学び、人との協力、参画といったコミュニケーション能力を身につける。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]				担当者			
	1 オリエンテーション・レクリエーション	授業の進め方、自己紹介、交流				片岡研人			
	2 ドッチボール・ドッチビー	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	3 ドッチボール・ドッチビー	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	4 バレーボール	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	5 バレーボール	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	6 バスケットボール	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	7 バスケットボール	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	8 フットサル	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	9 フットサル	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	10 レクリエーションスポーツ	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
	11 レクリエーションスポーツ	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人			
12 レクリエーションスポーツ	ルールの理解、技術の習得、実践				片岡研人				
授業形態	実技・講義								
教科書	指定なし・随時紹介・資料配布								
参考書	指定なし・随時紹介・資料配布								
評価方法	参加意欲(60)、授業態度(20)、技術習得(20)をもとに評価する								
授業時間外の学習	講義内で説明された内容(スポーツのルール、用具の準備等)を復習し、安全で円滑に授業が進められるようにしておくこと								
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に適した格好(服装・靴)で参加すること ・ルールやマナーを遵守し、健康で安全に参加すること ・授業内容は状況によって変更する可能性があるため、適宜連絡します 								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	解剖学 I			担当者	梅田 雄嗣 濱川 麻美 川瀬 翔太				
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	<p>人体の諸機能並びにその異常について学ぶ上での裏付けとなる人体の構造について学ぶ。 解剖学 I では、人体のあらまし、具体的な器官系である運動器系、脈管系について、その構成と各器官の機能的構造を学ぶ。</p>							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	1 人体のあらまし	細胞、組織、器官について、機能的構造およびそれらの相互関係について説明できる。各器官とその由来胚葉(外、中、内胚葉)が列挙できる。					梅田 雄嗣	
	2 運動器系	全身の骨格、関節、および骨格筋を列挙して、それぞれの構造的特徴と、骨格筋の起始と停止、働き、神経支配について説明できる。					梅田 雄嗣 濱川 麻美 川瀬 翔太	
	3 脈管系	全身の動脈と静脈および心臓、全身のリンパ管系(リンパ組織を含む)について、その機能的構造を説明できる。					川瀬 翔太	
授業形態	講義、演習							
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学』野村 巖(編集)医学書院 『解剖学カラーアトラス』J. W. Rohen/横地 千仞/E Lütjen - Drecoll (著) 医学書院							
参考書	『グレイ解剖学』、R. L. Drake ほか(著)秋田恵一(訳)エルゼビア・ジャパン 『ネッター解剖学アトラス』F. H. Netter (著) 相磯 貞和(訳)南江堂 『Essential解剖学 テキスト&アトラス』中野 隆(監訳)南江堂 『スネル臨床解剖学』R. S. Snell (著) 山内 昭雄ほか(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル							
評価方法	期末試験(梅田18点 濱川31点、川瀬51点)							
授業時間外の学習	各回の授業内容について、教科書や配布資料を活用して予習・復習を行うこと。							
履修上の留意点	解剖学の対象は、抽象的な数字や文字ではなく、3次元(あるいは4次元)の具体的な構造・形態である。名称と合わせて具体的な構造・形態をイメージできるようにすること。 各器官の構造はもちろんであるが、膨大な数の名称を覚えなければならない。それらを短時間、まして一回見ただけで覚えられる人は少ない。そこで、何回でも、覚えるまで繰り返し、学習する必要がある。また、限られた講義時間で全てを解説することは不可能なので、自学によって補わなければならない。							

授 業 要 項

令和6年度

科目名	生理学 I				担当者	林 寿来			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	細胞レベルでの生理学の基礎概念を学ぶ。さらに、神経と筋における機能分子による生理的調節について理解する。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 生理学基礎				細胞の環境、ホメオスタシスについて説明できる。			林 寿来	
	2 細胞機能				細胞の構造、物質移動とシグナル伝達について説明できる。			林 寿来	
	3 活動電位とイオンチャネル				細胞の刺激、膜電位、イオンチャネル、興奮伝導について説明できる。			林 寿来	
	4 骨格筋				骨格筋の構造、筋収縮機構、興奮収縮連関、筋収縮力学について説明できる。			林 寿来	
	5 シナプス伝達				神経筋伝達、中枢神経シナプス伝達、伝達物質、可逆性について説明できる。			林 寿来	
	6 自律神経				自律神経機能と制御分子について説明できる。			林 寿来	
	7 運動系				脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質の機能について説明できる。			林 寿来	
	8 感覚1				体性感覚、味覚、嗅覚について説明できる。			林 寿来	
	9 感覚2				聴覚、前庭感覚、視覚について説明できる。			林 寿来	
	10 脳機能				大脳皮質における高次脳機能について説明できる。			林 寿来	
授業形態	パワーポイントによる講義形式。適宜、授業内容の確認のため小テスト、演習を行う。								
教科書	文光堂 生理学テキスト 第9版								
参考書	やさしい生理学 南江堂 人体機能生理学 南江堂 QUICK生理学・解剖学 羊土社								
評価方法	授業態度と、小テスト及び定期試験の結果を評価する。								
授業時間外の学習	必要に応じて、予習復習に努めること。								
履修上の留意点	講義時間内に内容を理解すること、理解した点を説明できること。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	リハビリテーション医学概論				担当者	梶原 敏夫			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	リハビリテーション医学は、障害者を対象とし、早期より開始し、予後予測を行いながらチームにて社会復帰を援助し生活再建をすることである。その概要を学ぶ。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]				担当者
	1 リハ医学総論				リハ医学の定義と歴史、リハの理念と治療学、リハ医学の特徴について説明できる				梶原 敏夫
	2 医療制度におけるリハ医学				急性期・回復期・生活期や介護保険について説明できる				梶原 敏夫
	3 リハ診療と治療法				リハ診療の手順、治療手技、障害者心理と障害受容について説明できる				梶原 敏夫
	4 障害の病態と評価・治療				廃用症候群、運動障害について説明できる				梶原 敏夫
	5 障害の病態と評価・治療				歩行障害、摂食嚥下障害、排尿障害について説明できる				梶原 敏夫
	6 障害の病態と評価・治療				高次脳機能障害、認知症、加齢による障害について説明できる				梶原 敏夫
	7 リハ医学各論				脳血管障害のリハ、頭部外傷のリハについて説明できる				梶原 敏夫
	8 リハ医学各論				脊損のリハ、神経疾患のリハ、リウマチ性疾患のリハ、末梢神経障害のリハについて説明できる				梶原 敏夫
	9 リハ医学各論				切断のリハ、内部障害のリハについて説明できる				梶原 敏夫
10 リハ医学各論				整形外科疾患のリハ、悪性疾患のリハ、その他のリハについて説明できる				梶原 敏夫	
授業形態	講義形式								
教科書	最新リハビリテーション医学(医歯薬出版)								
参考書	現代リハビリテーション医学(金原出版)								
評価方法	筆記試験								
授業時間外の学習									
履修上の留意点									

授 業 要 項

令和6年度

科目名	解剖学Ⅱ				担当者	小林 邦彦 石田 和人			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	人体の諸機能並びにその異常について学ぶ上での裏付けとなる人体の構造について学ぶ。解剖学Ⅱでは、具体的な器官系である神経系、感覚器系、内臓系について、その構成と各器官の機能的構造を学ぶ。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 内臓学概論	呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系を構成するそれぞれの臓器の共通構造、生理機能の概略を明らかにする。						小林邦彦	
	2 呼吸器系	呼吸器系臓器の構造と機能を理解し、空気の通路である気道を構成する器官を順に説明できる。また、ガス交換の場である肺胞の構造を説明できる。呼吸運動に関与する神経・筋の作用を確認する。						小林邦彦	
	3 消化器系	消化器系の臓器のうち、食物の通過する器官(消化管)を順に挙げ、各部位での消化吸収を説明できる。また、消化管に消化液を分泌する消化腺の構造と機能も説明できる。						小林邦彦	
	4 泌尿器系	尿生成に関わる臓器の構造と機能を説明できる。排尿路を構成する臓器の構造と機能を説明できる。						小林邦彦	
	5 生殖器系	男性生殖器の構造と機能を説明できる。女性生殖器の構造と機能を説明できる。受精から個体の発生まで、人体発生学の概略も学ぶ。						小林邦彦	
	6 内分泌系	ホルモンを産生する内分泌系について、内分泌器の構造および産生されるホルモンの種類とその作用を説明できる。また内分泌系による全身の生理調節機構を確認する。						小林邦彦	
	7 神経系総論	神経系の区分、概要、発生など、神経系の基礎を学ぶ。自律神経系、運動系の解剖を説明できる。						石田和人	
	8 末梢神経系	脳神経および脊髄神経に分け、主な神経の解剖を学ぶ。神経叢を説明できる。						石田和人	
	9 外皮系と感覚器系	皮膚および付属器(角質器、外分泌腺)の構造を学び、各種感覚器について説明できる。						石田和人	
	10 脊髄・脳幹・間脳	脊髄、脳幹(中脳・橋・延髄)、および間脳(視床・視床下部)の構造を説明できる。						石田和人	
	11 小脳・大脳基底核	小脳および大脳基底核の構造について学び、運動制御に関する解剖学的基礎を説明できる。						石田和人	
	12 大脳	大脳の構造と機能を説明できる。						石田和人	
授業形態	講義形式を中心に行い、適宜、グループ演習や個別演習を取り入れて学習する。								
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学』 野村 巖(編集)医学書院 『解剖学カラーアトラス』 J. W. Rohen/横地 千仞/E Lütjen - Drecol (著) 医学書院								
参考書	『グレイ解剖学』 R. L. Drake ほか(著)秋田恵一(訳)エルゼビア・ジャパン 『ネッター解剖学アトラス』 F. H. Netter (著)相磯 貞和(訳)南江堂 『Essential解剖学 テキスト&アトラス』 中野 隆(監訳)南江堂 『スネル臨床解剖学』 R. S. Snell (著) 山内 昭雄ほか(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル								
評価方法	期末試験(小林50%、石田50%)								
授業時間外の学習	授業内容について、教科書で見直して復習をすること。 授業内容に関連した演習を課すことがあるので、適宜、予習および復習の観点から実施すること。								
履修上の留意点	解剖学の対象は、抽象的な数字や文字ではなく、3次元(あるいは4次元)の具体的な構造・形態である。名称と合わせて具体的な構造・形態をイメージできるようにすること。 各器官の構造はもちろんであるが、膨大な数の名称を覚えなければならない。それらを短時間、まして一回見ただけで覚えらる人は少ない。そこで、何回でも、覚えるまで繰り返し、学習する必要がある。また、限られた講義時間で全てを解説することは不可能なので、自学によって補わなければならない。								

授業要項

令和6年度

科目名	医学英語				担当者	蕨野博明			
学年	1	学期	前期	学科	理学療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	<p>医学英単語を学ぶことで、医療現場で使用される英語表現を理解する。 簡単な英文に触れることで、医療従事者としての英語でのコミュニケーションスキルを高める。 理学療法に関連する英文を把握できる基礎読解力を身につける。 知らない医学用語や医学英語について、参考書などを用いて調べる習慣を身につける。 早期から医学英語に触れることで、医学英語に対する関心を高める。</p>								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]				担当者
	1	プリント①<運動,解剖生理> テキスト Section 1			①の医学英語を理解する Section 1 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	2	プリント②<接頭語1> テキスト Section 2			②の医学英語を理解する。 Section 2 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	3	プリント③<接頭語2> テキスト Section 2,3			③の医学英語を理解する Section 2,3 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	4	プリント④<接頭語3> テキスト Section 3,4			④の医学英語を理解する Section 3,4 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	5	プリント⑤<接頭語4> テキスト Section 4			⑤の医学英語を理解する。 Section 4 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	6	プリント⑥<職種,リハビリ,カルテ用語 等>テキスト Section 4,5			⑥の医学英語を理解する Section 4,5 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	7	プリント⑦<肢位,姿勢,評価> テキスト Section 5			⑦の医学英語を理解する Section 5 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	8	プリント⑧<治療, 神経系, 症状, 症 候>			⑧の医学英語を理解する Section 5 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	9	プリント⑨<症状,症候> テキスト Section 6			⑨の医学英語を理解する Section 6 の英会話を使って会話ができる				蕨野博明
	10	プリント⑩<略語1> テキスト Section 6,7 文献抄読			⑩の医学英語を理解する Section 6,7 の英会話を使って会話ができる 医学英文を読み内容をまとめる				蕨野博明
	11	プリント⑪<略語2> テキスト Section 7 文献抄読			⑪の医学英語を理解する Section 7 の英会話を使って会話ができる 自ら和訳した医学英文を発表する				蕨野博明
授業形態	事前に配布している医学英語の確認テスト リハビリテーション英会話を使用したペアワーク 医学英文の抄読、発表								
教科書	配布プリント 角田亘・他;カンタン リハビリ英会話 キーフレーズ600+,(株)新興医学出版社,2019								
参考書	医学英和大辞典(南山堂)、ステッドマン医学大辞典(メジカルビュー社) リハビリテーション英語の基本用語と表現(メジカルビュー社)、リハビリテーションの基礎英語(メジカル ビュー社) 臨床に必要な英和・和英 人体用語集(ユリシス出版部)								
評価方法	小テスト(60%)、発表(20%)、ペアワークでの参加活動(20%)								
授業時間外の 学習	1時間程度の事前事後学習を要す								
履修上の 留意点	事前に配布するプリントの医学英語を覚えて確認テストに臨むこと。 ペアワークでの英語を使ってのアクティビティには積極的に参加すること。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	リハビリテーション概論				担当者	中川誠・中村敦子・米田愛 蕨野博明・堤恵志郎・川瀬翔太			
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションについての基礎的な概念を学ぶ。 ・保健医療福祉の推進について学び、理学療法士が果たすべき役割、多職種連携の概要について理解する。 ・障害についての基礎的な概念を学び、障害受容について理解する。 ・報告書を通して理解を深め、報告書の基礎的な書き方を習得する。 								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]				担当者			
	1 リハビリテーションとは	リハビリテーションの語源と歴史、定義と領域が説明できる。				中川誠			
	2 リハビリテーション医学と医療の概要	リハビリテーション医学と医療の概要を説明できる。自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム、多職種連携について説明できる。				米田愛			
	3 障害分類	障害を分類する意義について説明できる。ICIDH、ICFの概要を学び、それらの特徴を理解し、違いについて述べることができる。				蕨野博明			
	4 患者—治療者関係 障害受容	患者の心理を理解した上で、理学療法士としてどのような関係を築き、対応するとよいか、また障害受容について説明できる。				中村敦子			
	5 記録・報告	理学療法記録の位置づけ、記録の内容、具体的な手段について説明できる。基本的な記録・報告を正しく行える。				堤恵志郎			
	6 レポートの書き方	レポートの書き方を理解し、正しく書くことができる。				川瀬翔太			
授業形態	講義 および グループディスカッション								
教科書	なし								
参考書	最新リハビリテーション医学(医歯薬出版) 理学療法概論テキスト(南江堂)								
評価方法	レポートにて評定。レポートは5題を予定し、各教員の担当授業時間数に応じて配点する。								
授業時間外の学習	1～1.5時間程度の事前事後学習を要す(レポート作成含む)								
履修上の留意点	講義ごとに内容や感想をまとめ、各自でレポートを作成し担任に提出する。ノートおよび板書の書き写しのみではなく、講義内容を読み手に報告する文章を目指す。自分の言葉で理解したことを述べること。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法概論			担当者	中川誠・中村敦子・堤恵志郎・棚瀬智美・森海音				
学 年	1	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	1. 理学療法についての基礎的な概念を学ぶ 2. 医療における専門職に関する基本的知識を学ぶ 3. 医療人としての基本的行動を学ぶ								
授業計画	テーマ			授業内容 [行動目標]				担当者	
	1	理学療法とは 理学療法の歴史		理学療法の定義について説明できる 理学療法の歴史について説明できる				中川誠	
	2	理学療法士に関する法律		法規の概要について説明できる				堤恵志郎	
	3	理学療法士はどんなところで活躍しているのか		理学療法士が活躍している分野について説明できる 各分野での理学療法士の仕事内容を説明できる				中川誠	
	4	理学療法士の職能とは		理学療法士の職能、理学療法士が属する職能団体について説明できる				堤恵志郎	
	5	理学療法過程		治療手段としての理学療法の概略について説明できる 評価・目標設定などの概略について説明できる				中村敦子	
	6	理学療法(士)教育とは		理学療法教育の概要について説明できる				堤恵志郎	
	7	理学療法研究とは		研究に用いる用語を説明できる 研究計画の思考過程を説明できる				堤恵志郎	
	8	理学療法と報酬		医療保険制度および介護保険制度の概要を説明できる				堤恵志郎	
	9	理学療法と管理 ・個人情報保護 ・感染対策		個人情報保護について具体例を挙げて説明できる 標準予防策(スタンダードプリコーション)を説明できる				堤恵志郎	
	10	作業療法とは		作業療法の概要について説明できる				棚瀬智美	
	11	言語療法とは		言語療法の概要について説明できる				森海音	
	12	臨床見学 理学療法部門		これまで学んだことを見学したことに結び付け、 理解を深められる。 臨床見学に適切な態度を学び実践できる。				堤恵志郎	
	13	臨床見学 作業療法部門						堤恵志郎	
14	総括・発表		この講義で学んだことを、自分たちの考えを踏まえてまとめた発表ができる。				全PT教員		
授業形態	講義、グループワーク、見学、発表								
教科書	細田多穂 監修; 理学療法概論テキスト 改訂第3版, 南江堂, 2017								
参考書	最新リハビリテーション医学(医歯薬出版)								
評価方法	筆記試験(42%)、レポート(30%)、発表(28%)。レポートは作業・言語療法の概要についての2題と臨床見学レポートの2題を予定。筆記試験は理学療法分野についてとし、各教員の担当授業時間数に応じて配点。								
授業時間外の学習	1~1.5時間程度の事前事後学習を要す(レポート作成含む)								
履修上の留意点	臨床見学において適切な態度・服装・身だしなみで臨めるよう準備を進めること。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法または作業療法の実務経験あり								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	作業療法概論				担当者	棚瀬 智美 平松 敦子			
学 年	1	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30
教育目標 [一般目標]	1. 作業療法の基礎的な概念を学ぶ。 2. 医療における専門職に関する基本的知識を学ぶ。 3. 医療人としての基本的行動を学ぶ。 4. 報告書の基礎的な書き方を習得し、課題内容を踏まえ、考えたことや感じたことを整理して記載できる。								
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]				担当者		
	1	オリエンテーション レポートの書き方	授業概要について理解することができる。 レポートの基本的な書式を理解することができる。				平松敦子		
	2	作業とは、作業の意味	作業療法における作業の意味を説明することができる。				棚瀬智美		
	3	作業療法の歴史	作業療法の誕生から発展において、作業療法の核となる考え方を理解することができる。				棚瀬智美		
	4	作業療法の定義	・日本の法律、「日本作業療法士協会」「米国作業療法士協会」「世界作業療法士連盟」のそれぞれにおける定義の意味を理解することができる。 ・治療手段としての作業の意味を理解し、作業療法の過程を説明することができる。				棚瀬智美		
	5	作業療法の対象と領域、実施場所、実践過程	・作業療法の領域とその実践場所の特徴を理解することができる。 ・作業療法の実施までの流れと実践の過程を説明することができる。				棚瀬智美		
			3年生の介護保険領域の実習体験を聞くことで知識と合わせイメージでき理解することができる。				平松敦子		
	6	作業療法における記録・報告 記録・報告連絡相談	作業療法における記録・報告連絡相談について、その内容や必要性を理解することができる。				平松敦子		
	7	臨床見学 オリエンテーション、目標作成 臨床見学(作業療法、理学療法部門) 振り返り、まとめ準備 まとめ(発表)	作業療法概論・リハビリテーション概論で学んだことをもとに、目標をもって見学することができる。 臨床現場で適切な態度で見学することができる。プレゼンテーションを行うことができる。 臨床見学と学んだことを振り返り、今後の学院生活にむけた行動目標を立てることができる。				平松敦子		
授業形態	講義、グループ討議、見学、発表								
教科書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論(第3版)								
参考書	適宜紹介								
評価方法	レポート課題:30点、発表:10点、期末試験(筆記試験):60点								
授業時間外の学習	授業ごと予習復習を各30分程度行うこと。講義・見学後レポートを作成する(別途オリエンテーション実施)。								
履修上の留意点	レポートでは、課題内容に即して自分の言葉で読み手にわかりやすく報告すること。リハビリテーション概論とも連動して行われるため、関連づけて臨床見学に臨むこと。								
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事								

授業要項

令和6年度

科目名	リハビリテーション概論				担当者	中川 誠 梅田 雄嗣	水野 準也 平松 敦子	森 海音	
学年	1	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションについての基礎的な概念を学ぶ。 2. 多職種チームの概要と連携、地域包括ケアを学ぶ。 3. 障害についての基礎的な概念を学ぶ。 4. 報告書の基礎的な書き方を習得し、課題内容を踏まえ考えたことや感じたことを整理して記載できる。 								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 リハビリテーションの定義、歴史、種類 自立支援 就労支援	リハビリテーションの定義を理解することができる。 リハビリテーションの起源を含めた歴史を理解することができる。 リハビリテーションの種類や領域を理解することができる。						水野準也	
	①リハビリテーション医学と医療の概要 2 ②多職種連携 地域包括ケア	①リハビリテーション医学の考え方について理解することができる。 ②リハビリテーション医療と保健・福祉の連携・地域包括ケアについて理解することができる。						平松敦子	
	障害 3 ①障害とは・ICD・ICIDH・ICF ②障害受容 ③患者-治療者関係	①障害という概念を説明することができる。 ICIDH、ICFの概念を理解し、その違いについて説明することができる。 ②障害受容についての概略を説明することができる。 ③患者-治療者の関係について基本的事項を説明することができる。						梅田雄嗣	
	4 理学療法概論	理学療法の定義・役割・歴史について知り、理学療法の専門性について概要を理解することができる。						中川誠	
	5 言語療法概論	言語聴覚士の業務について理解することができる。						森海音	
授業形態	講義、グループ討議								
教科書	特になし								
参考書	適宜紹介								
評価方法	レポート課題:30点(中川13点、森7点、OT教員10点) 期末試験 :70点(水野12点、梅田41点、平松17点)								
授業時間外の学習	授業ごとの予習復習を各30分程度行うこと。講義後レポートを作成する(別途オリエンテーション実施)。								
履修上の留意点	レポートでは、課題内容に即して自分の言葉で読み手にわかりやすく報告すること。 作業療法概論とも連動して行われるため、関連づけて理解する姿勢で臨むこと。								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	医学英語				担当者	藤部 百代			
学 年	1	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	15
教育目標 [一般目標]	1. 医学英単語を学ぶことによる基礎知識の向上をはかる。 2. 学んだ英単語を活用し、簡単な英文に触れることで理解を深める。 3. 早期から医学英語に触れることで、医学英語に対する関心を高め、国際化に対応できる能力を培う。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 オリエンテーション				授業全体の概要が理解できる			藤部百代	
	2 テスト① INTRODUCTION				①の医学英語を理解できる。 INTRODUCTIONの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	3 テスト② CHAPTER I				②の医学英語を理解できる。 CHAPTER Iの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	4 テスト③ CHAPTER I				③の医学英語を理解できる。 CHAPTER Iの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	5 テスト④ CHAPTER II				④の医学英語を理解できる。 CHAPTER IIの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	6 テスト⑤ CHAPTER II				⑤の医学英語を理解できる。 CHAPTER IIの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	7 テスト⑥ CHAPTER III				⑥の医学英語を理解できる。 CHAPTER IIIの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	8 テスト⑦ CHAPTER III				⑦の医学英語を理解できる。 CHAPTER IIIの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	9 テスト⑧ CHAPTER IV				⑧の医学英語を理解できる。 CHAPTER IVの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	10 テスト⑨ CHAPTER IV				⑨の医学英語を理解できる。 CHAPTER IVの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	11 テスト⑩ CHAPTER IV				⑩の医学英語を理解できる。 CHAPTER IVの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	12 テスト⑩ CHAPTER IV				⑩の医学英語を理解できる。 CHAPTER IVの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	13 テスト⑩ CHAPTER IV				⑩の医学英語を理解できる。 CHAPTER IVの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	14 テスト⑩ CHAPTER IV				⑩の医学英語を理解できる。 CHAPTER IVの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
	15 テスト⑪ CHAPTER IV				⑪の医学英語を理解できる。 CHAPTER IVの内容のポイントが理解できる。			藤部百代	
授業形態	事前に配布している医学英語の確認テスト リハビリテーションに関連する英文(テキスト)を使用したペアワーク、発表								
教科書	リハビリテーションの基礎英語 第3版 メジカルビュー社								
参考書	医学英和大辞典(南山堂)、ステッドマン医学大辞典(メジカルビュー社)								
評価方法	期末試験(100点)								
授業時間外の 学習	小テストがあり予習を前提として授業が進むため、配布した英単語リストをもとに1時間程度の予習を行うこと。								
履修上の 留意点	3年間で学ぶ内容を行うため、医学用語を関連科目とつなげて理解する姿勢で臨むこと。								